

1 教育目標

① 目指す学校像 難関大学への進学、立命館への高大接続による進学、スポーツで一流選手への成長などを旨とする多様性をもった近畿南部随一の学校
② 育てたい生徒像 自ら考える力を持ち、素直で、周りを思いやり、忍耐強く物事に取り組むことのできる生徒

2 中期的目標

1 教科教育力の強化と進学実績の向上
2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上
3 クラブの競技力向上と全国大会出場
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT 教育）の強化
5 生徒募集強化による定員の確保

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
①教育活動に関する保護者アンケート（2025.1.8 実施） 今年度は中高共通の 21 項目のうち、8 項目が肯定的評価 80%以上となった（前年度 7 項目）。特に、「学校行事は楽しく充実している」（本年度 81.4%・昨年度 79.4%）は 2 年連続で肯定的評価が増加しており、体育祭や球技大会、初橋祭等の行事が実施できたことや保護者会の協力が評価改善に大きく貢献したと思われる。また、「わが子は積極的に学習に取り組んでいる」「生徒同士がお互いを認め合い、豊かな心の育成ができています」についても昨年度から肯定的評価が増加しており、落ち着いた校風やセルフデザインを主とする学習態度の醸成が徐々に実を結んでいる。 一方、施設・設備や食堂、寮生に関する項目は今年度肯定的評価を大きく下げている。学園や食堂スタッフ、保護者会や教育後援会、地域等の協力も得ながら改善を行う。	①委員会体制 初芝橋本中学校高等学校評価委員会 教育後援会会長（卒業生保護者・地域有識者）・保護者会会長・高等学校 2 学年保護者・中学校 2 学年保護者・校長・教頭 ②委員会実施日 2025 年 3 月 15 日（土）12:00 ③自己評価の結果に対する委員会の評価 ・ Qubena やスタディサプリでの学習状況、シラバスについて、保護者も見ることができるようほしい。 ・大阪に募集活動を強化するということだが、地元にも本校の取り組みや楽しい雰囲気伝わり切れていない。良いイメージをもっと地元にも伝えてほしい。 ・立命館コースの取り組み（校外学習）を他コースの生徒も参加ができるようにしてほしい。 ・学園祭を 2 日実施にするなど、地元の小中学生を招待するのはどうか。 ・スタサタ！や進プロなど、生徒が活用しきれていない。もっと声掛けをして行ってくれたら。 ・他校では修学旅行の行き先を複数にして選択できるなどの取り組みが行われている。修学旅行の時期や行き先について検討してほしい。
②生徒授業評価アンケート（第 1 回：2024.6.10 第 2 回：2024.11.11 実施） 4 年前より外部委託を行い、より正確で客観的な分析を行っている。総合評価の平均は、第 1 回は 85.0pt（昨年度 85.9pt）、第 2 回は 85.2pt、（昨年度 83.1pt）（業者による目標得点は 75.0pt）と、昨年度に引き続き、高評価であった。各回のアンケート後に分析報告会を実施し、資料や報告内容を全教員と共有した。各教科で学習効果を高める授業を行えるよう、引き続き努力する。	
③教員による自己評価アンケート（2025.1.8 実施） 今年度より各教科担当がシラバスを生徒に公開したなどの改善により、「教育計画と実施」の項目で肯定的評価が大きく向上した。また、①と同様に生徒会を中心とした行事が活発化したことで、「ボランティア活動」「学校行事」、「生徒会活動」「地域との交流」が前年度よりさらに肯定的評価を伸ばした。一方、「教員間の情報共有」「職員会議での情報共有」については肯定的評価を下げているので、次年度に向けて教員間の情報共有や会議内容の伝達方法について改善を行う。	

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 教科教育力の強化と進学実績の向上	(1)進路指導体制の強化	・模試データの分析と共有、教員研修の充実により、教員全体で指導できる体制をつくる。	①模試データの分析と共有 ②教員研修の充実	①校内で実施される模試のデータについては共有されているが、効果的に分析されているとは言えない。 ②教員研修の実施 ・ 2/27 スタディサプリ活用についての教員研修 ・ 3/3 橋本市自衛隊からの教員研修	・引き続き、教員研修等を充実させ、教員全体で指導できる体制を構築する。
	(2)大学進学への意識づけ	・進路講演会・大学見学会等の取り組みの充実と、大学主催行事への参加の促進を図る。	①進路講演会・大学見学会等の取り組みの充実 ②大学主催行事への参加の促進	①(a)以下の進路講演会等を実施した。 6/6,12 高3進学説明会、7/16 高2大学別説明会 10/11,16 高1・2進学説明会、 12/13 中3・高1大学別説明会 1/25,2/10 高1スポーツ進学説明会 (b)大学見学会 10/17 高1(2組)大学見学会(桃学大・近畿大) 12/18 高1(4組)大学見学会(大体大・桃山大) ②授業日の大学主催行事等への参加を促進するため「公欠制度」を導入した。今年度この制度の活用者は2名であった。	・生徒や保護者が早期から進路に対する意識を高めてもらうため、進路講演会や進学説明会の内容を引き続き検討し、より良いものにしていく。 ・生徒がオープンキャンパスや外部の説明会等に主体的に参加できるように、「公欠制度」の周知を行い、積極的な活用を促す。
	(3)コース毎の目標	①プレミアムコース ②総合進学コース ③立命館コース ④スポーツコース	①和大・大工大を中心とした国公立大学合格者数増(目標 10) ②近畿大学を中心とした私立大合格者数増(目標 40) ③立命館検証試験に 2 回目で全員合格。 ④部活動と学習の両立を目指し、学力の向上を図る。	①② (a)大学合格者数（2025.3.24現在） ・国公立大学：1（和医大） ・関関同立：47（目標50） ・近畿大学：18（産近甲龍28） b)進学率（2025.3.24現在） ・現役進学率：95.2%（昨年度94.8%） ・大学131、短大2、専門学校5、就職4、進学準備3 ③検証試験合格率 ・ 1 回目 31.7%・2 回目 48.8%・3 回目 87.8% ・ 4 回目で合格率 100%に到達。 ④6/26 高 1・2 スポーツコース対象に進学説明会を行い、早期からの学習習慣の確立について意識づけを行った。	①②④ ・進学意識向上と学力向上のために、組織的な進路指導体制を構築する。 ・手帳の活用を促し、主体的に学習する生徒を育成する。 ③引き続き、2 回目全員合格を目標として取り組む。

2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上	(1)立命館コースの学力向上	①GTEC成績向上 ②高3学習到達度検証試験の全員合格 ③学力向上のための取り組みの充実	①GTEC スコア推移 ②学習到達度検証試験において合格基準(60%)到達・追課題基準(70%)到達 ③学力向上のための取り組みの実施	①GTEC 平均スコア（高1、6月→最新回） 高1（706.9→752.6）高2（698.5→873.0）高3（685.4→931.2）。 ②英数国とも合格基準には41名全員が到達。追課題基準には英語39名、数学40名、国語39名が到達。 ③前年度に引き続き、英単語学習に学習アプリ「Monoxer」を活用した。学年を超えた「物理・数学勉強会」を実施した。	・理系強化：進プロ「物理実験」の受講推奨、「物理・数学勉強会」を継続し、苦手分野の解消や深い理解。 ・英語力の強化：オンライン英会話、進プロ「英検対策」「GTEC対策」の実施。Monoxerのさらなる活用による意欲の向上。 ・国語力の強化：輪読、各企画の振り返りを重視し、読解力、表現力の向上。
	(2)大学で学び続けるための意識の向上	①高大連携企画・本校独自企画の改善と充実 ②入学前教育の充実	①各企画の計画と実施 ②入学前教育の計画と実施	①各学年・各学期にオリエンテーションを実施。 ・高3対象校長面談、高1・2対象主任面談を実施。 ・高1「立命館を学ぶ」、「日本社会を知る」、「環境問題について学ぶ」、「日本社会を知る」、高2「APU多文化理解研修」「裁判所見学」、その他、高1～3立命館ミーティング、高1・2ライバルセミナー、保護者対象のBKC・APU見学ツアー、サマースクール等を実施した。 ②12月～2月にかけて、大学への数学、英語（TOEFL/TOEIC対策等）、オンライン英会話、論文講座、物理の講座を実施した。	・引き続き各企画のつながりを重視し、「視野を広げ学力・意欲向上にすべてがつながる3年間の高大連携企画」を実現することで、自信を俯瞰的に見て主体的に取り組める生徒を育成する。
3 全国大会出場 クラブの競技力向上と	クラブ実績の向上	・競技力向上による全国大会への出場	・全国大会への出場	・全国大会出場：3クラブ(カッコ内は回数) 柔道部(2)・テニス部(1)・卓球部(1) ・近畿大会出場：5クラブ サッカー部・柔道部・テニス部・バスケットボール部・陸上部 ・保護者アンケート「部活動や生徒活動が活発に行われている」肯定的評価84.2%（昨年度84.7%）。 ・教員アンケート「部活動は活発に行われている」肯定的評価100%（昨年度85.2%）	・引き続き、部活動の充実に努める。
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT教育）の強化	(1)自ら考えて決断し、将来を切り開くことができる生徒の育成	①生徒主体の学校行事計画・運営を強化するとともに、生徒会の活性化を進める。 ②校則の抜本的な見直しにより、考えて行動できる生徒を育てる。 ③手帳の活用により、主体的に活動できる生徒を育てる。	①生徒主体の学校行事の計画・運営。 ・生徒会の活性化。 ②校則の見直し。 ③手帳の活用。	①球技大会、体育祭、学園祭について、生徒会が中心となり、企画・運営を行った。 ・2024年度生徒会役員3名（昨年度7名） ②校則について生徒指導部・生徒会を中心に検討したが、抜本的な見直しはできなかった。冬期の防寒着については自由化した。 ③今年度フォーサイト手帳を導入し、日ごとや週ごとの計画、実行、振り返りを記入するように指導した。毎週Google Classroomに画像を提出する仕組みを作成した。各担任でチェックしているクラスもある。	・引き続き、生徒が主体的に学校行事に参画し、学校生活における満足度を高める工夫をする。 ・校則については引き続き検討し、生徒が自ら考えて行動できるように改善する。 ・手帳については次年度も継続して指導しながら活用の充実に促す。
	(2)生徒の学力向上	①わかりやすいシラバスを作成・公開し、目的意識を共有することで、授業の成果を向上させる。 ②学力評価システムの改革により、学習に向かう姿勢の向上を図る。 ③進プロ・スタサタ！の内容を見直し、積極的な参加を促す	①わかりやすいシラバスの作成・公開 ②評価システムの改革 ③進プロ・スタサタ！の内容の再検討	①今年度から全教科・科目でシラバスを作成し、Google Classroomに配信することで、生徒がその科目で「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」「何をがんばればよいのか」を明確に理解できるようにした。 ②今年度より観点別評価を整備し、新しい教務内規のもとで3観点の評価を行った。 ③「土曜日に学校で勉強する」意識を高めるため、土曜日（スタサタ！の日）にも進プロを導入した。	①シラバスの内容をより良いものにするとともに、生徒のシラバス活用を促す。 ②新しい評価制度で生徒が学習に向かう姿勢の向上を図るための方策について検討する。 ③放課後や土曜日について生徒の学習への意識向上を図る。
	(3)探究活動の強化	①探究活動の強化 ②総合型選抜に繋げる	①探究活動の強化 ②総合型選抜入試のか活用。	①「初橋探究」 高1（1～2組）は桃山学院大学ビジネスデザイン学部と共同で授業を行い、1/30に同大学キャンパスで発表会を行った。高1（4・5組）は桃山学院大学の三井教授によるプレゼンテーションに関する特別講義を3回行った。 2/8県と市の選挙管理委員会の協力を得て、中3から高2まで、初橋探究の「政策発表会&模擬投票」を実施した。 ②大学の総合型選抜入試 出願38、合格24（昨年度出願33、合格24）。	①次年度DXハイスクールの申請が採択されれば探究コーディネーターの活用を行い、内容の一新を図る。 ・探究活動日に「進路講演」を行うなど、生徒の視野を広げ、探究活動の視座を高める。 ②引き続き、大学入試における総合型選抜入試の活用を促進する。
	(4)ICT機器の効果的活用	・導入アプリを積極的に活用し、学習習慣の確立と基礎学力の向上	①導入アプリの活用 ②学習習慣の確立と基礎学力の向上	①・中学全学年でAI教材「Qubena」を活用。中1～高3でスタディサプリを活用。 ・中2(国数)、中3(数英)、高1～3(国数理英)でオンデマンド授業を実施。 ②毎週土曜日に「週末課題」としてスタディサプリの課題を配信。	・学力向上や学習習慣の確立のための効果的な学習アプリの活用について検討する。
5 生徒募集強化による定員の確保	・定員確保に向けた募集活動の強化	①新コースの魅力の周知 ②WEBと紙媒体を連動させた広報展開 ③南大阪地区への広報活動強化	①新コースの周知のための学校案内やリーフレット作成。 ②ホームページのビュー数、Instagramのフォロワー数 ③南大阪地区への中学校・塾訪問数。	①中学校・塾：一括配布（186中学、598塾） 受験生・保護者：資料請求、入試関連行事などで配布した。 ②・ホームページ（トップページ）23,713PV（昨年度29,141） ・Instagramのフォロワー数は792（昨年度588） 公式Instagramからの公式サイト流入数：511 ③中学・塾への訪問 堺市）中学校：43校、塾：126塾 南河内）中学校：37校、塾：105塾 大阪市）中学校：38校、塾：75塾	・大阪への広報活動をより強化し、受験者増加に繋げる。 ・ホームページ、Instagramでの学校生活や募集行事の発信を引き続き積極的に行う。